

International Classification of Health Interventions (ICHI) の

我が国における活用・普及のための研究

研究代表者 川瀬 弘一 聖マリアンナ医科大学理事

研究要旨:

目的:本研究の目的は、保健・医療関連行為に関する国際分類(International Classification of Health Interventions: ICHI)の開発ならびに我が国での活用方法を提案し、それらを活用して継続的な教育、普及を行うスキームを確立することである。

研究結果の概要: ICHIの動向としてWHO-FICの年次会議、中間会議に出席。2022年には、阿部幸喜氏が日本整形外科学会のレジストリJOANRを用いて、我が国における整形外科領域の手術コードとICHIのマッピングについて発表、そして2023年には、瀬尾善宣氏がWHO-FICのファウンデーションにおける脳の解剖学的部位に焦点を当てて検討し、特に脳幹の分類は体系的でないことを報告した。ICHIの我が国への活用方法としては、2022年には4カ所で「ICHI研修会」を行った。

研究の実施経過: WHO-FICでは、この数年公衆衛生領域の開発、改善に積極的に取り組んでいる。また中心分類であるICD、ICF、ICHIはファウンデーションという共通の枠組みから用語が引き出されているため、ICHIとICDにおけるExtension codesの共通化が急ピッチで進められている。また翻訳については2022年度にはICHI Reference Guideの日本語訳を行った。我が国におけるICHIの活用・普及には、ICHIの日本語訳が必要で、スピード感を持って対処したい。

研究分担者

岩中 督・東京大学医学部附属病院 名誉教授  
波多野賢二・国立精神・神経医療研究センター・データマネジメント室・室長  
高橋長裕・公益財団法人ちば県民保健予防財団総合健診センター 顧問  
小川俊夫・摂南大学農学部食品栄養学科 教授  
阿部幸喜・地域医療機能推進機構船橋中央病院 整形外科 医長  
荒井康夫・北里大学病院・診療情報管理室・特別専門職  
瀬尾善宣・社会医療法人医仁会中村記念病院 副院長  
斉藤宗則・鈴鹿医療科学大学保健医療学部鍼灸サイエンス学科 教授

**A. 研究目的**

本研究の目的は、保健・医療関連行為に関する国際分類(International Classification of Health Interventions: ICHI)の開発ならびに我が国での活用方法を提案し、それらを活用して継続的な教育、普及を行うスキームを確立することである。

**B. 研究方法**

1) ICHIの動向

ICHIの動向についてWHO国際分類ファミリー(WHO-FIC)年次会議・中間会議の活動、および今後について記述する。

2) ICHIの我が国への活用方法

ICHIの教育、普及のための方法を検討する。

## C. 研究結果

### 1) ICHI の動向

WHO-FIC の年次会議、中間会議に 2022 年度はハイブリッド開催であり WEB で出席し、2023 年度からは現地にて出席した。最新の情報を収集するとともに、我が国の知見を踏まえた意見提出を行った。

2022 年には、研究分担者の阿部幸喜氏は日本整形外科学会のレジストリ JOANR を用いて、我が国における整形外科領域の手術コードと ICHI のマッピングについて「Mapping the Japanese Orthopaedic Association National Registry (JOANR) to ICHI」の演題名でポスター報告を行った。整形外科領域の国内手術コード 149 コードから ICHI コードへのマッピングを試みたところ、Stem code 単独では 18.5% の相同性にとどまるが、Extension codes を用いると 43.6%、更に ICD-11 コードを付与することにより 80.5% の相同性を得たことを報告した。また、国内コードが保険請求コードを転用しているために手術コードとしては相応しくない部分があること、ICHI には関節鏡下手術のコードが不足していることなどの問題点を指摘した。両コードをマッピング、互換性を調べることは、医療行為の国際間比較を行う上で時宜を得たものであり、高い評価が得られ、口演発表の機会も与えられた。

2023 年には、研究分担者の瀬尾善宣氏は「Consideration of anatomical classification axis related to the brain in the WHO-FIC Foundation」の演題名でポスター報告を行った。その内容は、WHO-FIC のファウンデーションにおける脳の解剖学的部位、特に脳実質と脳動脈に関連する項目に焦点を当てて検討したもので、脳実質では解剖学的軸が不適切な箇所があることを指摘し、特に脳幹の

分類は体系的ではないことを報告した。脳動脈に関しても、動脈分岐とは関連していないため、分岐に基づいた分類軸を提案した。

### 2) ICHI の我が国への活用方法

ICHI の普及、国内利用のため、医療現場への継続的な教育・普及が必要である。

2022 年度は、診療情報管理士を目指す専門学校生 531 名にハイブリッドで ICHI 研修会をおこなった。また医療事務や教育に係わっている診療情報管理士への ICHI 研修会は、計 3 回、東京、福岡、大阪の 3 カ所で開催し、49 名の参加者があった。研修内容は初めて ICHI を知ったという方や ICHI の名前は聞いたことがあるという方を対象としたベーシックコースと、Extension codes を付加したコード検索を中心としたアドバンスコースを設定した。いずれも「ICHI テキスト 2022」を用いて、パソコン、スマホを用いての「ICHI online」検索方法を中心に指導した。

研修終了後にはアンケート調査を施行し、専門学校生を対象とした ICHI 研修会では 322 名から回答をいただいた。WHO-FIC の中心分類であることは約 1/3 が知っていたが、残りの 2/3 の学生は「初めて ICHI を知った」と回答し、このような学生を対象に研修会をおこなったが、スマホを器用に用いて ICHI コード検索を積極的に行っていたと、さらに英語表記の ICHI 検索画面に対して、Google 翻訳機能を用いての指導で、内容の難易度は「易しかった」「ちょうどよかった」と回答したものが 34%であったが、2/3 の受講者は「概ね理解できた」と回答していただいた。

一方、現在病院医療事務等に従事している方を対象とした研修会では、ICHI については 6 割の方は「事前にはあまり知らなかった」と回答していたにもかかわらず、85%の方が「概

ね理解できた」と回答し、理解度も 15%が「理解できないところがあった」と回答してたものの、理解できない内容は、Extension codes についてであった。

2022 年度は研修会開催以外に、川瀬が第 59 回日本小児外科学会学術集会にて「小児外科領域における ICD-11」という演題名で発表、第 48 回日本診療情報管理学会学術大会の教育講演 2 で「我が国における ICHI 活用の可能性」の講演を行った。2023 年度は第 49 回日本診療情報管理学会学術集会において、荒井康夫氏が「K コードの分類体系の見直しに関する現状」、川瀬が「K コードの分類体系見直しにおける外保連基幹コード (STEM7)、ICHI コードの検討」、瀬尾善宣氏が「脳神経外科手術における、K コード、手術基幹コード (STEM7)、ICHI における相違点について」、さらに第 26 回日本臨床脳神経外科学会において「脳神経外科手術における、K コード、手術基幹コード (STEM7)、ICHI における相違点」という演題名で発表を行った。

日本語訳については、Stem code の 3 つの軸、Target、Action、Means の項目についてはこれまで仮訳を行ってきたが、頻繁にその内容が修正されるため、完全なものはない。2022 年度には ICHI Reference Guide の日本語訳を行った。

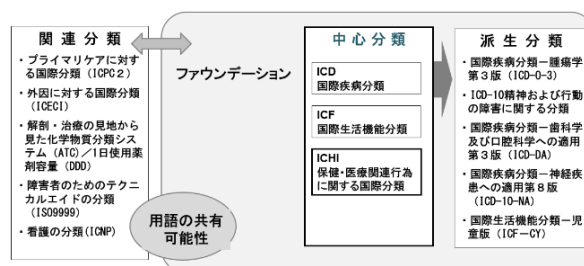
#### D. 考察

ICHI 開発が 2007 年にスタートして、今年で 17 年目を迎える。2019 年 7 月から 2020 年 2 月までに世界各国で行われた ICHI フィールドテストには、日本から 140 名が評価者として参加した。Public Health interventions (公衆衛生領域の保健・医療関連行為) については、標準的な言葉、用語に馴染みのない分類であり、どの国においても正解率が低率であった。こ

のため WHO-FIC では、この数年公衆衛生領域の共通言語の開発、改善に積極的に取り組んでおり、2023 年度の WHO-FIC ネットワーク年次会議でも、現在も検討中ではあるものの大幅な修正が行われ、加盟国の協議を経て最終決定されると報告された。

WHO-FIC は、その中心分類として疾病及び関連保健問題の国際統計分類 (ICD) と国際生活機能分類 (ICF)、ICHI の 3 つを設け、共通のファウンデーションから用語を引き出し作成しており、各分類が密接に関連している (図 1)。

図 1. WHO 国際統計分類ファミリー (WHO-FIC) 中心分類である ICD、ICF、ICHI や派生分類は WHO-FIC のファウンデーションという共通の枠組みから用語が引き出されている



Extension codes は、Stem code では十分表現できない、あるいは区別できない保健・医療関連行為を精緻化するためにとっても便利なコードであるが、とても煩雑である。その内容は 8 つの大分類に分けられ、「Additional descriptive information (付加的な記述、情報)」が 59 コード、「Assistive products (支援製品)」が 138 コード、「Essential pathology tests (診断のためのテスト)」が 119 コード、「Quantifiers (数)」が 27 コード、「Telehealth (テレヘルス (遠隔医療を含む))」が 3 コード、「Therapeutic products (治療用製品)」が 169 コード、「Anatomy and topography (解剖と部位)」が 2,894 コード、「Topology Scale Value

(部位スケール値)」が 40 コードの全 3,449 コードからなっている(図 2)。

図 2. Extension codes

	Extension codes 大分類	コード数
1.	Additional descriptive information (付加的な記述、情報)	59
2.	Assistive products (支援製品)	138
3.	Essential pathology tests (診断のためのテスト)	119
4.	Quantifiers (数)	27
5.	Telehealth (テレヘルス(遠隔医療を含む))	3
6.	Therapeutic products (治療用製品)	169
7.	Anatomy and topography (解剖と部位)	2,894
8.	Topology Scale Value (部位スケール値)	40
	合計	3,449

ICHI の Extension codes は WHO-FIC のファウンデーションという共通のストックから引き出すことが 2022 年の WHO-FIC 年次会議で確認され、これにより ICD と ICHI の Extension codes の共通化が急ピッチで進められている。しかしながら現在 ICHI online で検索しても「No Code Assigned(コードが割り当てられていません)」と表示され、まだ具体的なコードは振られていない。

我が国の保険制度で用いられている K コードは診療報酬改定毎に増加し、2024 年度では 53 術式が増えている。これら新しい術式に対応する外保連基幹コード STEM7 は作成したが、今後は ICHI とのマッピングも必要となる。

日本語訳は国内での活用には必須である。2022 年度は「ICHI Reference Guide」の翻訳を行った。これまでも ICHI Stem code の 3 つの軸、Target、Action、Means の仮訳を行ってきたが、新たに加わったものも多く、日本語訳を継続している。今後は、検索ブラウザすべての日本語訳をすすめていきたい。

## E. 結論

近年中に世界保健総会 WHA において ICHI

の承認が期待される。承認後の ICHI の我が国への活用については、多くの方に ICHI を理解していただくために、「ICHI テキスト」を用いた講習会を継続し、これまでの経験を踏まえて、ベーシック、アドバンスコースの内容をブラッシュアップしていく予定である。そのために教育・普及のための教材の基本となる「ICHI テキスト」の改訂も毎年行いたいと考えている。今後の最大の課題は、ICHI の日本語訳の作業であり、スピード感を持って対応したい。

## F. 健康危険情報

特記事項なし。

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) K. Abe, H. Kawase, N. Yokogawa, K. Yamashita, M. Yamashita, T. Sasaki, A. Yamaoka, Y. Shiga, S. Maki, K. Inage, Y. Eguchi, S. Orita, S. Ohtori. Mapping the Japanese orthopedic association national registry (JOANR) to the international classification of health interventions (ICHI), Journal of Orthopaedic Science, 2023. <https://doi.org/10.1016/j.jos.2023.01.002>
- 2) 川瀬弘一. 保健・医療関連行為に関する国際分類(ICHI)の動向. 医学のあゆみ. 2022; 283(8): 803-804..
- 3) 松本万夫, 稲垣時子, 河村保孝, 瀬尾善宣, 住友正幸, 海野博資, 川瀬弘一. シンポジウム2:ICD-11 の実際. 日本診療情報管理学会誌. 2022; 34(2): 13-39..
- 4) 川瀬弘一:我が国におけるICHI活用の可能性. 診療情報管理 35(1):23-32, 2023

## 2. 学会発表

- 1) 川瀬弘一, 岩中 督, 波多野賢二. 小児外科領域における ICD-11. 第 59 回日本小児外科学会学術集会. 東京. 2022/5
- 2) 川瀬弘一. 教育講演 2 我が国における ICHI 活用の可能性 第 48 回日本診療情報管理学会学術大会. 高知. 2022/7
- 3) K. Abe, H. Kawase, N. Yokogawa, K. Yamashita, M. Yamashita, T. Sasaki, A. Yamaoka, Y. Shiga, S. Maki, K. Inage, Y. Eguchi, S. Orita, S. Ohtori. Mapping the Japanese orthopedic association national registry (JOANR) to ICHI, WHO Family of International Classifications Network Annual Meeting 2022, 2022/10
- 4) 阿部幸喜, 山下正臣, 稲毛一秀, 山下桂志, 佐々木俊秀, 山岡昭義, 折田純久, 江口和, 牧 聡, 志賀康浩, 大鳥精司. ICHI (International Classification of Health Interventions)を介した JOANR-DB の国際間比較への利活用の可能性. 第 95 回日本整形外科学会学術総会. 神戸. 2022/5
- 5) Seo Y, Takahashi O, Kawase K, Matsumoto K, Abe K, Nakamura H, Suenaga H. Consideration of anatomical classification axis related to the brain in the WHO-FIC Foundation, WHO Family of International Classifications Network Annual Meeting 2023, 2023/10
- 6) 荒井康夫. K コードの分類体系の見直しに関する現状第 49 回日本診療情報管理学会学術集会. 十和田. 2023
- 7) 川瀬弘一. K コードの分類体系見直しにおける外保連基幹コード(STEM7)、ICHI コードの検討. 第 49 回日本診療情報管理学会学術集会. 十和田. 2023
- 8) 瀬尾善宣. 脳神経外科手術における、K

コード、手術基幹コード(STEM7)、ICHI における相違点について. 第 49 回日本診療情報管理学会学術集会. 十和田. 2023

9) 瀬尾善宣、中村博彦. 脳神経外科手術における、K コード、手術基幹コード(STEM7)、ICHI における相違点. 第 26 回日本臨床脳神経外科学会. 宇都宮. 2023

## H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得  
特記事項なし

2. 実用新案登録  
特記事項なし

3. その他  
特記事項なし